

平成23年度第2回公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日 時：平成23年5月16日（月）14時30分～15時20分

場 所：熊本県立大学大会議室

出 席：学長 古賀 実  
副学長 半藤 英明  
事務局長 益田 和弘  
文学部長 山田 俊  
環境共生学部長 有菌 幸司  
総合管理学部長 三浦 章  
地域連携センター長 篠原 亮太  
学術情報メディアセンター長 津曲 隆  
アドミニストレーション研究科長 黄 在南  
前熊本近代文学館館長 河原畑 廣  
昭和女子大学教授 渡辺 満利子

欠 席：熊本県公立高等学校長会会長 森塚 利徳

事務局：渡辺事務局次長、林田教務入試課長、高橋学生支援課長、馬場総務課長、阪本企画調整室長、田中学術情報メディアセンター事務長、枝國地域連携センター事務長、教務入試課元島班長、同課西本主幹、企画調整室安達主幹

- 1 開会（進行：渡辺次長）
- 2 学長挨拶
- 3 議事（議長：古賀学長）

（1）審議事項

① 授業料未納に伴う学生の除籍について

事務局教務入試課から、授業料未納に伴う学生の除籍について、資料1に基づき説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

② 名誉教授称号授与について

事務局総務課から、名誉教授称号授与について、資料2に基づき、「今年度の名誉教授称号の授与については、『熊本県立大学名誉教授称号授与規程』及び『熊本県立大学名誉教授称号授与に関する申し合わせ』の規定に基づく該当者は、元文学部梅林誠爾教授、元環境共生学部長大和田紘一教授の2人である。いずれも、平成22年度に退職された先生である。規定において教育研究会議の選考を経て授与することとなっている。」との説明があった。

続いて、文学部長から、「梅林先生は、本学に32年間、教授として22年間在職され、その間、学長、文学部長、文学研究科長として、また、教養、専門の教育、ご自身の専門の哲学を中心とする研究にも取り組まれて、大学運営、教育、研究のいずれの点においても名誉教授として推薦して全く問題ないという文学部の判断で推薦した。」との説明

があった。

続いて、環境共生学部長から、「大和田先生は、本学に在職された10年間のうち、7年間環境共生学部長、5年間環境共生学研究科長として大学運営に尽力された。その間、専門の海洋微生物学の研究に関する論文も数多く発表され、また、藻場の再生など高大連携の取組にも取り組まれた。さらに、県の養殖トラフグ生産履歴審査会会長をはじめ、国、県の委員を歴任、社会貢献の面でも活躍された。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

## (2) 報告事項

### ① 平成23年度管理栄養士国家試験結果について

環境共生学部長から、資料3に基づき、「3月20日に試験、5月9日に合格発表があった。新卒の合格率は、全国が82.1%、本学は74.4%であった。中期計画で90%という目標を掲げ、平成21年が89.5%、22年が85.7%であったので、今回もそれなりの結果が出ないかと期待をしていたが、結果は74.4%の合格率であった。私達の指導が十分でなかった、もしかしたら学生達にモチベーションをキープさせることができなかったことが原因の一つでないかと考えている。発表を受け、学科長、学科の教員と早急に意見交換を行った。2年前には管理栄養士国家試験への対応として、若い教員を中心にプロジェクトをつくって取り組み、また、学生の自発的な勉強会もあったが、昨年は未実施であった。模擬試験受験と模試結果を踏まえた指導は行ってきたが、厳しさが足りなかったと思っている。今後、これをどこまで再生するかについて、食健康科学科に見直し、提案をしていただくつもりである。具体的には、教育内容の見直しと学生に対する年間を通じての指導をきちんとしていかないといけないと思っている。渡辺先生にも御指導をお願いしたい。今回の結果を真摯に受け止めて、来年の受験に対応していきたいと考えている。」との報告があった。

### ② 非常勤講師の採用について

事務局教務入試課から、資料4に基づき、「講師が未定であった全学共通科目『人権と文化』及び環境共生学部食健康科学科の専門科目『調理学』について、緊急に非常勤講師を採用する必要が生じたことから、前者については4月20日付けで、後者については5月2日付けでそれぞれ1名の採用を行った。」との報告があった。

## 4 その他

次回日程 平成23年6月13日(月)午後2時30分～ 本部棟2階大会議室

## 5 閉会